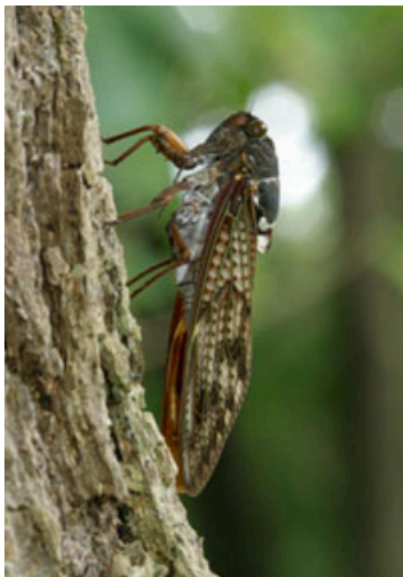


理学部附属 植物園のいきものたち 第26回 半翅目の昆虫

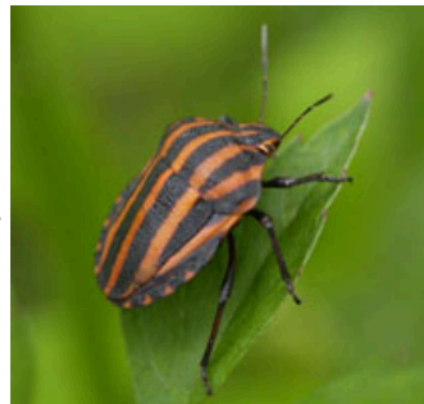


▲写真1

今回は半翅目の昆虫を2種紹介します。

写真1はアブラゼミ。真夏に暑苦しい声で鳴くあのセミである。奄美・沖縄諸島には別種のリュウキュウアブラゼミが分布する。芭蕉の「閑かさや岩にしみ入蝉の声」のセミがアブラゼミかニイニゼミかで齊藤茂吉と小宮豊隆が論争になった話は有名であるが、やはりアブラゼミの暑苦しい声と芭蕉の句とは相容れないと思う。アブラゼミという名前は近代になってからである。江戸時代以前の文献では「蝉」とあるが、この字はアブラゼミにもクマゼミにも当てられている。アブラゼミにはアカゼミ、サトゼミなどの呼び名があったらしい。

写真2はアカスジカメムシ。黒と赤の縦縞のカメムシである。セリ科の植物を食べるので、これらの植物の花の上でよく見られる。カメムシ類は一般に独特の悪臭で身を守るので天敵が少ない。キンカメムシ類のように派手な美しい色のものも多いが、これは「私是不味い」というメッセージを伝える警告色なのであろう。



▲写真2